



じんけんへいわしりょうかん  
人権平和資料館だより

2023年（令和5年）9月

**HUMAN RIGHTS & PEACE**

だいごう  
第282号

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 084-924-6789 FAX 084-924-6850

じんけんへいわ  
人権と平和は

せいせき  
21世紀のキーワード

[jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp](mailto:jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp)

ふくやまはんとてんめい ひやくしょういっき  
「福山藩天明の百姓一揆」

ひとりぎせいしゃだ だんけつちえか と いっき  
～一人の犠牲者も出さず団結と知恵で勝ち取った一揆～

きかん 期間 9月10日(日)～11月26日(日)



てんめい かがりびち  
「天明の篝火燃ゆ」 作者：大迫美晴

いま ねんまえ あさまやま てんめい だいふんか お ふんえん せいそうけん たつ  
今から240年前、浅間山で天明の大噴火が起こりました。噴煙は成層圏まで達  
せかいじゅう きこう か てんめい だいききん ほったん とき おな  
し、世界中の気候を変え天明の大飢饉の発端となりました。時を同じくして  
ふくやまはん あ べまさとも だい だいふくやまはんしゅ ねんがん ろうじゅうしゅうにん ねら  
福山藩では阿部正倫が第4代福山藩主になり念願の老中就任を狙っていました  
ふくやまはんしゅ だいだいばっかく やくがらそうおう しゅっぴ か ろうじゅう  
た。福山藩主には代々幕閣としてその役柄相応の出費が課せられ、また老中に  
しょうしん こうさくひょう ねんしゅつ ひつよう  
昇進するための工作費用の捻出も必要でした。

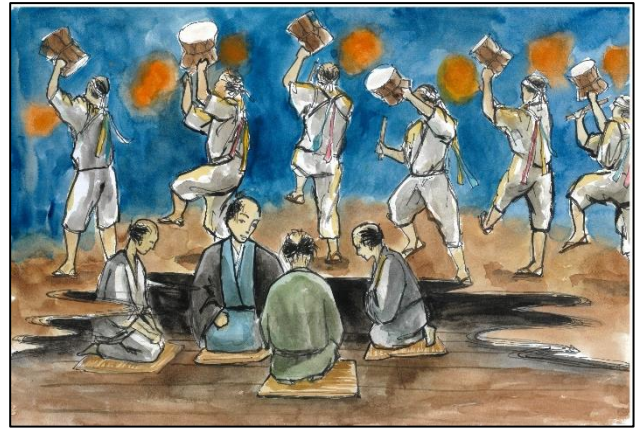
なか えとづ かきゅうはんし えんどうべんそう しだい とうかく あら  
こうした中、江戸詰めの下級藩士であった遠藤弁蔵が次第に頭角を顕わし、

うら 裏に続く

「天明の一揆」の前年に大目付役格・御元締役見習役まで駆け上り財政面を  
 独占することとなりました。このような状況の中で、国元の重職たちは  
 イエスマンと化してゆき、「裸の王様」となった正倫の暴走に歯止めが利か  
 なくなりました。弁蔵の進言に従うまま領内の状況を考慮せず、年貢  
 上納の前倒しや御用金賦課、新たな藩札の強制的流通、操綿の流通  
 統制など、強権的に領民支配が進められました。そして、1786年（天明  
 6年）12月ついに福山藩最大の百姓一揆が勃発しました。



飢饉のときは優しい人から命を絶っていく



祭りに乗じて一揆の打ち合わせを行った



中国新聞連載小説「鬼日向水野勝成」作者

藤井登美子さんのプロフィール

1947年（昭和22年）生まれ。市立尾道短期大学卒業。在学時はサルトルの戯曲に惹かれ、同志たちと演劇部をつくり『午後五時から後の人』となって活躍する。卒業後は建設会社、町役場勤務を経て美術品販売店を自営。四十代半ばから独学で時代小説を書き始める。趣味は時空を超え、歴史上の人物たちと交流すること、そして能楽鑑賞。

作品

- 「鳳 芭蕉の夢」「花がたみ」（第四回中近世文学大賞受賞）
- 「北嶺に立つ」「天明の篝火」「姫谷有情」「鞠芳葉の浦伝説」「草魂の賦」
- 「鬼日向水野勝成」

講演会：「福山藩天明の百姓一揆」

入場無料

日時：10月29日（日）13：30～

講師：中国新聞連載小説「鬼日向水野勝成」

作者 藤井登美子 さん

場所：福山市人権平和資料館